



奉迎一光三尊佛（一身田寺内町にて）



掛替えのない宝物

総務 鈴木 紀生

ました。流行歌と言われる所以です。話が変わりますが、戦後から続いた詰込教育が厳しく叩かれています。平成十二年から「ゆとり教育」に切り換えられました。ところが学習内容の削減による著しい学力低下を招いたので、折角の「ゆとり教育」が再び見直されました。

今も、合掌しながらお念佛を申しておりますと「あつあん」が脳裏に浮かんでくるのです。流行歌や教育形態は時代とともに移り変りますが、三歳の時に教えた歌は「あつあん」は歳月を経ても変わることなく私の胸に棲み続けています。確かに母が言わせた「あつあん」であります。

に母は幼い私に手を合わせ、「あつあん」と言うよう促しました。「あつあん」は兄が仏壇を拝むときの発声だったようです。ちなみに「あつあん」が「なも」になりました。流行歌と言われる所以です。

発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



音楽は様々なジャンルに分けられます。その一つに流行歌と呼ばれる部門があります。読み方を変えれば流行歌です。エジソンが発明したラッパ吹込式蓄音器が電気吹込式に進化して音質が飛躍的に良くなつた昭和初期から、レコード会社が競つて流行歌をリリースするようになりました。多感な少年時代に耳にした流行歌を懐かしく思い出することがあります。一世を風靡した歌手はすでに忘れ去られ、彼等の歌声もラジオやテレビから殆んど流れなくなり

七十年以上も昔のことですが、六歳で他界した兄を偲んで、母が時折「おはぎ」をつくつて仮壇に供えていました。そのため

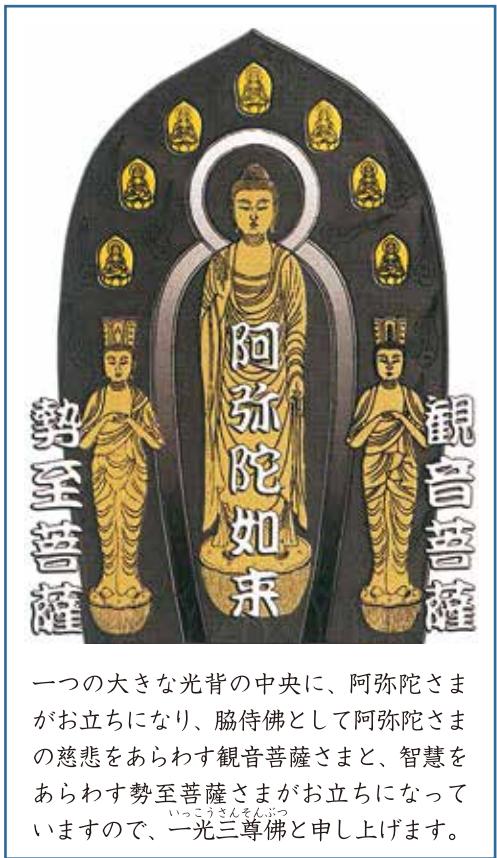
音楽は様々なジャンルに分けられます。その一つに流行歌と呼ばれる部門があります。読み方を変えれば流行歌です。エジソンが発明したラッパ吹込式蓄音器が電気吹込式に進化して音質が飛躍的に良くなつた昭和初期から、レコード会社が競つて流行歌をリリースするようになりました。多感な少年時代に耳にした流行歌を懐かしく思い出することがあります。一世を

七十年以上も昔のことですが、六歳で他界した兄を偲んで、母が時折「おはぎ」をつくつて仮壇に供えていました。そのため



一光三尊佛御開扉特集

三尊さまは平成28年3月まで高田本山におみえになります



一つの大きな光背の中央に、阿弥陀さまがお立ちになり、脇侍佛として阿弥陀さまの慈悲をあらわす觀音菩薩さまと、智慧をあらわす勢至菩薩さまがお立ちになっていますので、一光三尊佛と申し上げます。

みおやの徳のとうとさを
はらかに伝えつつ、淨土の旅を共
にせん」です。この「みおや」こそ、
阿弥陀さまのことであります。で
は、「みおやの徳」とは、どのよう
なものなのでしょうか。それを教
えてくださるのが、一光三尊佛さ
まであります。

一光三尊佛さまとは、中央に阿
弥陀さま（阿弥陀佛、阿弥陀如

からお経の内容を尋ねられたときは、「ああ、ありがたいありがたい、庄松助けるぞよ」と書いてある」と申されたそうです。庄松さまは、阿弥陀さまの「親心」をしつかりと受け止められておられます。

そして親鸞聖人は、「無碍光佛は、觀音とあらわれ勢至としめす」と述べられています。無碍光佛とは阿弥陀さまの別名です。一人一人

六月一日、第五十回高田派婦人連合大会が盛大に開催され、御影堂満堂の中、最初にご出席の皆さまによつて『真宗宗歌』が歌われました。この歌は「ふかきみ法にあいまつる」で始まり、第三番目の歌詞が、「海の内外うみのへだてなく

真宗宗歌では阿弥陀さまのこと
を「みおや」と呼ばれて「いますよ
うに、阿弥陀さまは、「一切衆生
(いのちあるすべてのもの)」の
「親さま」なのです。妙好人(みょうこうにん)
お念佛を喜ばれる人の尊称)で有
名な庄松さまは、お寺の本堂で竈
ぎながら、「親のうちじや、遠慮す
るには及ばぬ」と言われ、ある方

第一回目 二尊さまってなんだろう?

来（さる）がおられ、その両脇に觀音菩薩（かんのんぱさつ）さまと勢至菩薩（せいしはさつ）さまが立たれて
います。

に光を届けてくださるのが阿弥陀さまですが、その光の中身を教えてくださるのが慈悲の観音さまと智慧の勢至さまなのです。親の体は一つでも、「親心」は時には慈悲のぬくもりを時には智慧の明るさを私に届けてくださいます。十七年ごとに一光三尊佛さまに手を合わす

生きている苦悩を乗り越えて、
それぞれの輝くいのちを生き
ていく私たちの生き方を考え
るご縁となつたと共に、私た
ちの次の世代やその孫の世代
へと伝えるべき、あり方を感
じました。

三重県津市久居二ノ町

三重二十七組 妙華寺

遙か七百五十年余り昔に、親鸞聖人が直拝をされていた一光三尊佛をお迎えして、十

本堂に広がつた「南無阿弥陀
仏」の響きを聞いて、单なる
形の継承ではなく、今ここに



妙華寺にて法主殿の御親教

3／30(日) 本寺での御開扉



午前8時、高田本山へ向け
御出輿。途中、御小休をしな
がら3日間かけて本山へ



三尊様の御前にて御親教さ
れる前法主殿

3／31(月) 本寺出輿



4／1(火)～4／2(水)
伊勢路での御小休
桑名市 常信寺

午後4時、三尊様御到着。
明朝まで御逗留されました



3／31(月) 名古屋別院御小休

四日市市 善教寺
四日市市 崇顕寺
四日市市 興正寺
四日市市 常超院
鈴鹿市 神戸別院



鈴鹿市 青龍寺
鈴鹿市 専照寺
津市 最勝寺
津市 高田慈光院



4／2(水) 法主殿お出迎え



4／2(水) 本山へ輿行列

伊勢路最後の御小休処の最
勝寺では、法主殿が三尊様を
御出迎えされました

4／3(木)～4／5(土)
本山での御開扉

特別講演 青山俊董師



お言葉を述べる法主殿



一番間近で拝めた通り参拝

法灯が伝えられた旨を仏祖の前に報告する法会でござります

ご巡教始まる

去る三月十二日、三重県第一組のご巡教が、智慧光院にて行われました。

新法主殿が第二十五世の法燈を継承されて後、傳燈奉告法会までの期間に門末寺院へ足をお運びになるご巡教は、いわば挨拶巡りでもあり、短い時間ではありますが住職・御同行と膝と膝を突き合わせ、共々にお念仏の喜びを分かち合いたいと願うものです。第二十一世堯熙上人の御書には「衰老の身を以て尚各地を廻し、門徒を教化し、いささか仏祖広大の恩徳を報謝し奉らんと、日夜心がけ居りし候いし」と記されています。



平成二十八年三月二十五日 より三日間

法主が法灯を継承して後、法燈が伝えられた旨を仏祖の前に報告する法会でござります

法主殿は、順風満帆の船出とは言い難い現代の環境で、時代に遅れをとらないように、法義に真摯に向き合うことが何より高田の発展になると述べられました。また、同時期に式年御開帳となつた一光三尊佛に思いを寄せて、「三尊さまは、様々な信仰をつなぎ止めていた仏さま。中開帳では信濃善光寺と同時御開帳という年にあたり、宗旨宗派の垣根を超えて、仏教寺院が手

を取り合うことで、苦難の時代の様々な問題と向き合う希望の船出としたい。」と力強く語られました。

その後各寺院の住職、坊守、総代の紹介をしていただき、山門までお見送りいただきました。

傳燈奉告法会日程決まる



縁と共に75年
三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

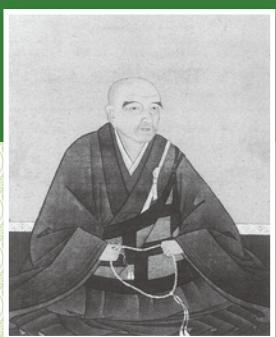
山本造園

代表 山本 進一郎
津市栄真小川町869-77
TEL 059-232-7453
FAX 059-232-7453

高田本山御用達
井筒法衣店
社長 幾田 潤
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)
TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

高田派第九世 定顕上人

550年忌法会
平成26年
7月5日(土)～7日(月)



定顕上人は28歳にして専修寺の住持職を継承されました。毎月親鸞聖人の月命日には、唯一人、御影堂にお入りになり、戸を閉じて、終夜お念仏を称えられたと伝わっています。大変熱心な念仏者であり、「還相の時 馬車に乗じて 来らん事を」と、唯々還相廻向を待ち望み楽しんでおられたといいます。

| | | |
|--|----------------------------------|-----------|
| 600 8342 | 北村文雄著 教行信証と涅槃經 戒律を知るための小辞典 | 本体5500円+税 |
| 振替 電話 FAX 075 010 023 051 496 933 111 | 矢田了章著 親鸞の人間論 —その歴史的研究— | 本体8500円+税 |
| 京都市下京区花屋町西洞院西入 | | |

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

善導大師（上）



高田派の勤行（おつとめ）で文類偈唱和において「善導獨明佛正意」の一句を何故ひとり唱導するのかと疑問に思われたことはありませんか。

この作法は親鸞聖人が善導大師のご功績は、当時の学者やそれ以前の学者の誤った考えを正しく訂正されたこと（古今楷定）にあると、「善導独り佛の正意を明らかにせられたことを、私たちが感動をもつて唱うことにあります。親鸞聖人は七高僧としてお

敬いになる第五祖に、曇鸞大師、道綽禪師の伝統と浄土教の本旨を明らかにされた善導

善導大師は隋の煬帝・大業九年（六一三）に山東省（異説あり）にお生まれになりました。没年は唐の高宗・永隆二年（六八一）で六九歳にて

還淨されました。若くして出家され佛教を学ばれましたが、あるとき西方淨土の有様を描いた『西方淨土變相図』を見

て深い感銘をうけ淨土教に帰し、また経蔵より『觀無量寿經（觀經）』を探し出し、この経こそ進むべき道であると信仰をいただかれます。そして二十九歳のころ山西省石壁の玄中寺に道綽禪師をたずねられてご教化をうけ、浄土の教えを学ばれました。そして七高僧の中で直接師弟として面授されたのはこのお二人だけです。そして大

師は長安（現・西安）の光明寺や市街で称名念佛を多

くの人びとにすすめられ、念佛弘通につとめられました。また『阿弥陀經』十余万巻を写され、『西方淨土變相図』三百余を造られ、民衆に淨土教を弘められました。

著書は『觀經疏』四巻、『法事讚』二巻、『往生礼讚』、『觀念法門』、『般舟讚』各一巻が

あり、五部九巻の聖教と呼ばれてています。

善導大師は、佛の正意は罪惡生死の凡夫こそがすくいの

目当てであり、凡夫こそが念佛によつて往生することがで

きるのだと力説されたのです。

日本の淨土教においては、

その教えに法然上人が出会い、

親鸞聖人がさらに深められ、

今私たちが聞かせていただく

道が開かれてあるのです。

大師を挙げられています。

具足の凡夫の自覚を与える經典であると、当時の佛教界の聖者のための經典という理解と全く違つた読み方をされたのです。

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具 小堀

<http://www.kobori.co.jp/>

本店/京都市下京区烏丸通正面にある 075-341-4121(代)

東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから 0120-27-9595 (受付時間9:00~18:00)

(第三部会)

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ
社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

えどこうがじら
繪所頭
御本山絵所
によふう

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈
高級御影石専門店

御影石材株

（石に御用の方は） イシニコロ

0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

靈園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

ISHISEN STONES

株式会社 ストーンズ 石仙

(旧(有)山本石材店)

0120-67-4114

四日市市近鉄阿倉川駅前 059-331-4114

こんな行事ありました

写生大会

3月22日～4月6日

春休みにあわせて約二週間の期間で本山写生大会が開催されました。15名の参加者を数え、それぞれが思い思いの本山の建物を描いてくれました。

高田本山賞には伊藤愛実さん（小学5年生）の作品が選ばれました。

（下写真）その他、協賛の中日新聞社賞には宮崎心さん（小学5年生）、山口こう輝くん（小学4年生）、伊藤瑞歩さん（小学3年生）が選ばれました。おめでとうございます。



親鸞聖人降誕会

5月21日

親鸞聖人降誕会がお勤めされました。御参廟に続き、御影堂にて本山褒賞・本山表彰・祖師寿章の表彰式が行われました。

安樂庵では、本山に伝わる宗旦古流による降誕会記念呈茶が催され、たくさんの方にお抹茶を楽しんでいただきました。



本山前にクラシックカー

4月18日

名古屋～京都までを走行するクラシックカーのイベントが開催されており、4月18日（金）午後2時頃に、津市の旧跡として高田本山前の一身田寺内町をクラシックカーが走りました。



はなまつり

4月20日

お釈迦様の生誕を祝う「はなまつり」が開催されました。あいにくの天気となりましたが、たくさんの子ども達が参加してくれました。甘茶の灌仏をして、本山の建物の中を御影堂まで白ゾウと歩きました。高田高校の仏青インタークト部のお兄さんお姉さんとゲームをして遊びました。仮の子として元気に育ってください。



第50回高田派婦人連合記念大会 6月1日

婦人連合会が1965年に発足して以来、第50回目となる記念大会が御影堂にて開催されました。本山の広い御影堂が満堂になる程の参加者のなか、長年、会長としてご婦人の先頭に立ち開法・奉仕活動を続けてこられた大裏方様から、婦人連合会の会長の交代が告げられ、新会長となるお裏方様をご紹介いただきました。

祖師寿の表彰者は408人にもなり、その内、参加いただいた56人ひとりひとりに、お裏方様が式章を掛けてお祝いされました。



坊守研修会50周年記念祝賀会

6月6日

坊守会が50周年を迎える、二日間の研修会の後、祝賀会が開催されました。祝賀会では感謝の気持ちを込めて、前法主殿と大裏方様に花束が手渡されました。



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

行事案内

これからの本山諸法会

みなさまご参詣下さい

歓喜会

八月十四日～十六日

お盆の法会のことと歓喜会と呼んでいます。仏縁によって私たちが救われるところとして勤められています。歓喜会のお勤めは、如来堂で三日間勤められます。

お日中 午前七時より
お日中 午前十一時三十分より

讃佛会(秋彼岸)

九月二十日～二十六日

ご先祖の恩に謝し、法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会として、讃佛会をお勤めしています。

講佛会のお勤めは如来堂にて、彼岸の入りより七日間勤められます。

お彼岸のお日には、御影堂に於いて御親教が行われます。お日中お勤め後、法主殿が参詣のお同行に親しく御教示され、共に讃佛のご縁を喜ばれます。

晨朝 午前七時より

お日中 午前十一時三十分より
御親教 九月二十三日 十二時三十分より

十月一日～三日 佛敎保育合同参拝 九月二十二日より

資堂講法会

資堂講法会は第二十二世堯熙上人に

十月未定

歴史まるごと体験塾（対象小学生）

八月六日～八日

第五十九回檀信徒研修会

九月九日 午前十時より正午まで

これからの本山諸行事

どなたでもお気軽に越し下さい。聴講無料

第二十二回法話発表大会

八月一日～五日

第八十八回仏教文化講座

午前九時より正午まで

お日中 午前十一時三十分より

納骨堂法会

十一月三日～四日

本山への納骨は宗祖聖人のお徳をしおぶとともに、亡き人も聖人の御廟のそばへ葬つてあげたいとの大きな願いが出されました。法会は御影堂、納骨堂に於いて十一月三日、四日の両日、お日中をもつて別時のお勤めが勤められます。

御参廟・行列 午前十時三十分より
お日中 午前十一時より

**高田短期大学仏敎教育研究センター
仏教基礎講座（高田本山寄付講座）**

日程 8月18日(月)～22日(金)

会場 高田短期大学 教室

対象 寺族および一般

受講料 無料

科目 仏敎学・仏敎史・真宗学・真宗史・
高田の歴史と法寶物
初日午前9時より開講式
1日5科目5限の5日間集中講座です

申し込み方法

受付期間 7月1日(火)～7月31日(木)

申込方法 ハガキ、FAX、メール

申込内容 氏名(ふりがな)、性別、年齢、住所、電話番号、教師検定の審査希望(高田派僧職の方のみ記入)
受講科目名(一般受講の方のみ記入)
宿泊先の斡旋希望、昼食の希望(〇〇日～〇〇日)

お問い合わせ

〒514-0115 三重県津市一身田豊野195番地
高田短期大学仏敎教育研究センター基礎講座係
TEL/059-232-2310(代表) FAX/059-232-6317
E-mail/b-center@takada-jc.ac.jp

**第88回仏教文化講座
一般聴講歓迎 聽講無料**

とき 8月1日(金)～5日(火)

午前9時より正午まで

ただし、初日は9時半より開講式

ところ 高田会館ホール(高田本山)

8/1(金) ●法主殿御親講

8/2(土) ●講師／名古屋大学大学院教授 阿部泰郎先生

【講題】聖徳太子信仰の宗教遺産

-テクスト・イメージ・儀礼-

8/3(日) ●講師／相愛大学教授 釈徹宗先生

【講題】仏教と芸能 -お説教と落語の関係-

8/4(月) ●講師／上智大学グリーフケア

研究所所長・特任教授 島薗進先生

【講題】日本仏教の社会倫理

8/5(火) ●講師／善昌寺住職・高田短期大学特任教授

金信昌樹先生

【講題】師弟法契 -親鸞聖人と門弟たち-

宝物館特別展観 午前10時～午後2時

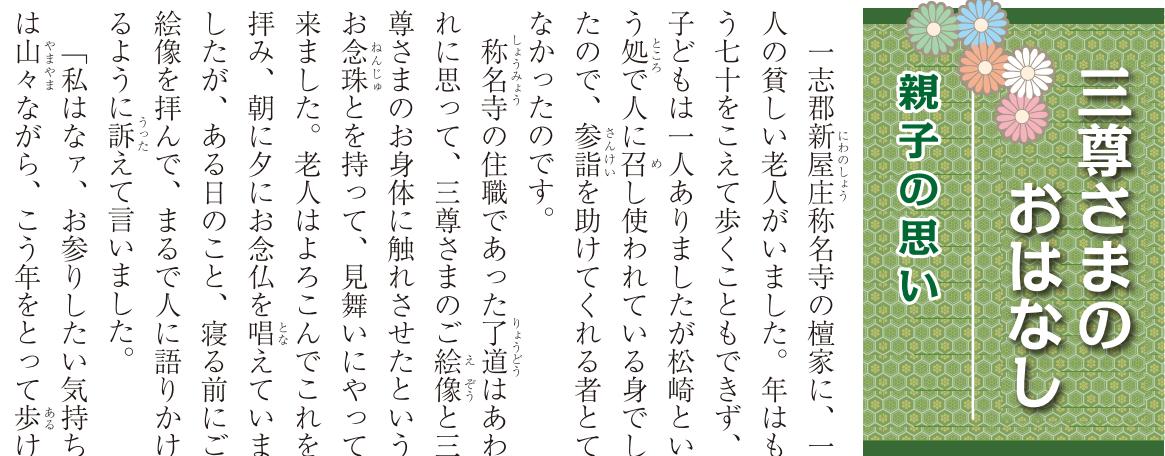
歴史まるごと体験塾

参加者募集

平成26年
8月6日(水)~
8日(金)
2泊3日

◆対象 小学5年生・6年生
◆お申込み締切 7月18日まで
◆お問い合わせは津市生涯学習課へ
電話 059-1229-3251

寺院名



二尊さまのおはなし

親子の思い

一志郡新屋庄称名寺の檀家に、一人の貧しい老人がいました。年はもう七十をこえて歩くこともできず、子どもは一人ありました。松崎といふ處で人に召し使われて、いる身でしたので、参詣を助けてくれる者となかつたのです。

称名寺の住職であつた了道は、わざに思つて、三尊さまのご絵像と三尊さまのお身体に触れさせたといふお念珠とを持って、見舞いにやつてきました。老人はよろこんでこれを拝み、朝に夕にお念仏を唱えていましたが、ある日のこと、寝る前にご絵像を拝んで、まるで人に語りかけるように訴えて言いました。

「私はなア、お参りしたい気持ちは山々ながら、こう年をとつて歩け

竹の輿に乗つてお参り申そうにもお金がございません。どうかお慈悲で

ございます。松崎にいるせがれに、私を誘うて参詣させる心を起こさせ

て下さいませ。せめて一度なりと、参拝申したい……」

こうして嘆きなげき、寝につくの

でした。

さて、その朝早く、一番鶏が鳴き始める頃、戸を打ち叩いて「開けてください、開けてください」という

声がします。それは、まさしく松崎のわが子の声でした。びっくりしてとび起き、わけを聞いてみると、

「尊い仏さまがご本山でご縁を結んでおられる」と聞き、さぞお前さまも参りたからうに、老病の身ではかなうまいと思い、ご主人から二日の暇をもらつて来ました。さあ、参りましよう。」とのこと。

これこそ仏さまのお導きじやととび立つようにうれしいのですが、

「そうは言うても、お前、この老いの身でどうして参れようぞ。」と言

いはどうにもなりません。駅馬や輿を借り、雲出まで寄越しておきました。雲出の川は私が背負つて下さいます。松崎にいるせがれに、

もうこれは疑いもなく二尊さまのお慈悲じやと、うれし涙に袖をぬらすのでした。

こうして参詣の道すがら、昨夜三尊さまにお願いしたわけをわが子に言い聞かせ、親子ともに感激の涙にくれながら拝観を終えたのでした。

(『二尊さまむかしばなし』より掲載)



一光三尊佛これからの御開扉

①御開扉期間 平成27年4月3日~5月28日

中開帳 平成27年4月3日~16日 特別御開扉 平成27年4月17日~5月28日

三重県立博物館(MieMu)親鸞~高田本山の至宝~特別展 平成27年3月21日~5月10日

②御開扉期間 平成28年3月25日~30日

傳燈奉告法会 平成28年3月25日~27日 御帰山法会 平成28年3月28日~30日

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索